

3D向けインバー合金強化

新報国マテ本社に試験装置

新報国マテリアルは、今期(2024年12月期)から始動した新しい中期目標で、インバー合金の3D積層造形分野を強化し、铸造で手掛けている半導体製造装置関連向けインバー合金製品を3D積層造形で製造する。24年内をめどにインバー合金を素材に3D積層造形を行うための試験装置を本社(埼玉県川越市)の研究開発部門に、造形設備を三重工場(三重県三重郡川越町)に導入する計画で、実用化に向けた検討段階から試作段階に移行する(成瀬正社長)。また、AI(人工知能)技術も取り入れる。

三重に造形設備導入へ

新中期目標では、「少シオンを起し、イ」を未来へのビジョ
数精鋭で新報国インバー合金世界一を獲ンに設定し、実現に向

けて創造的研究開発と
革新的製造技術、積極
的販売戦略に取り組
む。

3D積層造形は10年

以上の実績を持つ東金
臨産業(本社静岡
沼津市)と連携し、ま
た兵庫県立大学の特任
教授で金属新素材研究
センター副センター長
である柳谷彰彦氏を顧
問として招くなど、積
層造形素材をインバー
合金に特化して研究開
発に取り組んできた。
すでにインバー合金
の積層造形製造技術は

確立しており、24年に
は設備投資を実施し、
試作段階にシフトす
る。将来的には三重に
3D砂型プリンター装
置を新設し、铸造工程

で使う鋳型を造型する
なり、木型に替わる造
型方法を開発する。
AIについては砂混
練ミキサーへのティ
ーチングシステム導入

や、溶解作業の自動化
を推進する。また傷の
検出に活用するべく専
業メーカーと協議して
いる。